

1. 出題の意図

課題文は、『社会起業入門—社会を変えるという仕事』（神野直彦・牧里毎治編著、ミネルヴァ書房、2012年）「第5章 社会問題を解決するためのイノベーション」、「3シアバター石けんプロジェクト」（孫良著）の一部である。

本書は、近年噴出してきた、既存の枠組みで解決できない社会課題を解決する手段として、社会起業に着目している。社会起業（ソーシャル・ビジネス）とは、地方の過疎化、少子高齢化、高齢者・障害者の介護、環境破壊、地震や台風等の災害といった社会課題に対して、自分ごととして解決していく手法である。本書は、社会起業に関連する概念、成立過程と現状、社会に及ぼす影響を解説した上で、具体的事例を挙げ、解決の糸口、“イノベーション”として提示している。この三番目の事例が本課題文であるシアバター石けんプロジェクトである。ここでは、社会起業が途上国の貧困問題、女性差別問題、HIV、環境破壊などの社会課題に対して、どのように社会的変革を起こし、その解決にあたらうとしているかが解説されている。

地域社会学科は、社会課題に対する積極的なアプローチを目指している。今回、途上国の社会課題解決に向けた具体的な事例を扱った課題文を取り上げ、受験生に、社会課題をどのように認識し、これに対して自らはどのようにかかわっていくかを考えてほしいと考えた。

2. 評価のポイント

問1

問1は、筆者の主張とその論拠を読み解く読解問題である。課題文では、下線①の前の三段落において、発展途上国の直面している様々な問題点を丁寧に説明し、これを受けて、筆者は「途上国が抱えているこれらの問題を解決するために、どのようなことができるだろうか」と問いかけている。この問いに対する筆者の答え、および、その方法を選択する理由を述べるという問題である。

筆者が用意した答えは、下線部①の二つ下の段落の「公的援助、慈善事業、社会開発の枠組ではなく、社会起業の一つの選択肢であるソーシャル・ビジネス」という箇所にある。さらに、筆者が、この手法が望ましいと考える理由として、既存の手法である公的機関、市場、それぞれの限界を指摘できたかが評価のポイントである。

【解答例】

公的援助、慈善事業、社会開発の枠組ではなく、社会起業の一つの選択肢であるソーシャル・ビジネスを試みることができる。市場は問題を作り出した犯人であり、公的機関だけで問題を解決できていないのが現実だから。(100字)

問2

問2は、筆者の主張とその意味するところを読み解く問題である。

筆者は、「石けんプロジェクトは、“西アフリカの女性の味方”ともいえるシアバターを原料にした石けんのソーシャル・ビジネスである」と主張しているが、その前の数段落で、ブルキナファソの問題を説明し、特に女性問題にフォーカスしている。この女性問題の論点を受けているのが、“西アフリカの女性の味方”という設問の言葉である。したがって、回答は、前述されている女性問題を整理して提示しなければならない。

よって評価のポイントは、下記三点の記述となる。(i)女性が劣位に置かれていること⇒男尊女卑の考え、男性は町で働けるが女性は働けないという実態、(ii)その中でも、シア関連労働は、伝統的に女性の仕事として受け止められていること、(iii)シアに関わる仕事は、女性に収入をもたらしていること。

これらに三点に関して若干の欠落があっても、文章の後半部分にある(i)HIVに感染した女性にも誇りを与えることができる、(ii)子どもに教育を受けさせる糧になる、(iii)女性のエンパワメントに役立つ等について書かれていた場合には加点とした

【解答例】

男尊女卑の考えが根強いアフリカで、シアの実を集め、圧搾して商品を製造し、市場で売るのは伝統的に女性の仕事として受け入れられてきており、女性に収入をもたらす役割を果たしてきているため。(92字)

問3

問3は、シアバター石けんプロジェクトが、持続可能な社会変革をもたらすソーシャル・ビジネスの例として、どのような社会問題に対して、どのような手法で臨もうとしているのか、課題文全体の論旨を要約した上で、課題点について考えるものである。要約の適切性、課題が説得力を持って指摘されているかが採点のポイントである。

要約に取り上げられるべきは以下の内容である。

シアバター・プロジェクトは、ブルキナファソには、次のような社会問題があると考えた。まず、森林破壊と砂漠化、これによる農村の生活の厳しさ、次に、村に残って家族の世話をしながら、農産物や日用品を売る女性の収入の少なさ、これに由来する医療費および子どもの教育費の賄えなさ、貧困の再生産である。さらに、女性のエイズ感染、必要な薬が買えないこと、病状の悪化である。

シアバター・プロジェクトは、これらの解決を可能にする持続可能な社会変革のため、現地の生活様式に根差した、女性と密接な関わりのあるシアに目をつけ、これを活かしたビジネスを考案した。これを通して、環境保全、女性支援、エイズ感染者の支援を目指している。

具体的な手法としては、日本の社会起業家が、ブルキナファソと日本の多くの個人、組織、団体をつなげ、多くの関係者に参加してもらうことで、理解者を増やし、ネットワークを広げる。シアバター製造により、森の資源を使い、女性が収入を得、同時に森林保全にかかる経費の捻出を可能にする。これを通して、村民の森林保全意識の向上も期待できる。たんに原料の輸出ではなく、石けん製造までを行う。先進国の消費者の目にかなう高品質の石けんを製造するため、石けん製造のノウハウを他の女性に教えらえる教師陣を養成する研修を行う。HIV感染者含むプロジェクト参加女性の収入増、エンパワメント（働く喜び、自信と自尊心の回復）が期待される。

一方、このプロジェクトが持つ課題としては、ビジネスのモデルを導入する販売戦略、高い品質の実現、維持、大手企業との競争、シアの安定供給、収量の安定などが考えられる。

3. 採点講評

問1

筆者の主張である「社会起業の一つの選択肢であるソーシャル・ビジネス」に関しては、大半の学生が点数をとれていた。理由に関しては、一部、市場と公的機関の二つの側面について十分理解しておらず、あるいは同じ意味でとらえてしまい減点になる答案が目立った。

問2

多くの学生が3つの評価のポイントを押さえていた。一部西アフリカの男尊女卑的な問題について欠落している回答もあったが、HIV感染問題、エンパワメントについて、説明できてい

て、点数をカバーできていた。

問3

下線部③で筆者が「ソーシャル・ビジネスは持続可能な社会的変革を可能にする」としていることを引きながら、「石けんプロジェクトは、持続可能な社会的変革をどのように達成する(略)か」を聞く設問であった。

社会問題の解決に、持続可能な社会変革を通して取り組むのが社会起業であること、石けんプロジェクトは、「環境保全」、「女性」、「エイズ支援」を可能にするものであると要約した上で、一方で社会企業はビジネスとして軌道にのせることが必要であり、これに関していくつかの課題があるとする解答を期待した。

しかし、下線部③の直後の文章から、「ビジネスとして成功しなければならない」という、社会起業の一側面にのみ注目した要約を行い、ビジネスとして軌道にのせることに関する課題を書いた解答が多かった。